

リベンジの山上州武尊山

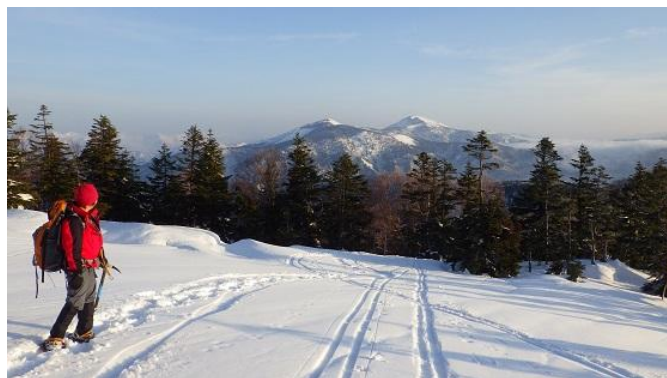
K坂

今回の山行は久々の朝発。朝4時にセットした目覚ましが定刻通りに私を起してくれた。周りはまだ暗く、前日遅く寝たので後5分と思つて布団に入り直す、はっと気が付き時計を見ると5時19分。待ち合わせは5時45分に日進駅。乗り継ぎの関係で5時4分に最寄駅を出発する必要があった。取り敢えずK藤さんに事情を話して遅れる事を話すと「仕方がないよね。」と優しい言葉をかけてくれた。前日に私を起さないで勝手に行けと言つた妻を起して最寄駅まで車で送つてもらふ。「ありがとう。」とお礼を言つても言葉も無く立ち去る我が愛車。K藤さんと話し集合場所を少しでも近い西大宮とする。川越線の乗り継

ぎ時間20分が勿体なく大宮駅からタクシーに乗る事にした。タクシーの運ちゃん、路地を飛ばすに飛ばす。西大宮駅に入る直前にK藤車が目の前に飛び込んで来て、その後ろにタクシーをつける。遅れが最小限でホットする。関越は混雑していたが思った程遅れずに計画書より20分程度の遅れで武尊牧場スキー場の駐車場を出発する。計画書を監視所に提出し注意事項を受けてリフト2本を乗り継ぎスキー場の頂上に着く。雪が少なくグレンデは土がちらほら見えている箇所がある。やはり、今年は雪が少ない。先行しているBC3名のスキー跡が進行方向についている。ここでワカン、スノーシューをつけて歩

き出す。H谷川さんT脇さんは前回ラッセルに苦しめられて敗退との事でしたが、今回は雪が少なく厳しいラッセルも無く予想以上に進む。13時10分頃には今回のテンバに決めていた避難小屋に着く。避難小屋を覗くとBC3名の寝袋が転がっていた。我々は夜の宴会の為に少し離れた場所にテントを2張、張る。小さなテントがK坂、H高の寢床である。偵察隊と水作り隊に分かれて行動する。BCの跡が続いているので今日上州武尊山に登りに行ったようである。我々は中ノ岳が見える箇所までトレースをつけて、中ノ岳を登るルートを大体決めてテントに戻る事にした。K藤さんは中ノ岳のトラバースで敗退したとの事。Y城さん、テンバへの帰路で複数のトレースをつけてリーダーに注意される。

テントに着くとT脇さんH高



さんが水を作っていた。更に水を作りながら、乾杯し宴会開始である。みんな、銘々が持ち込んだお酒とツマミを出して、どうでも良い事を話しながら飲んで行く。周りに気を使わないで騒げるのが雪山テント泊の楽

しみでもある。今回の食担、菊

Tさんの夕食を酒のつまみにして更に飲み続ける。気が付くと寝袋の中にいた。トイレに行く為にテントを開けると辺りは霧で真っ白である。一旦寝袋に入るもH高さんから起床時間の4時をつけられて渋々起きる。H高さん灯油ストーブの準備をしている。灯油ストーブは温かく火力もあるが重くて火が安定するまで時間が掛かるのが難点である。

朝食を食べて6時30分に出発。途中までは前日つけたトレースをたどって行く。悪天の予報は思いがけずに晴れであり、途中で景色を堪能して進む。燧ヶ岳から至仏山、越後三山、谷川岳がくつきりと見えて我々を歓迎している。霧氷も朝日で宝石のように輝いている。この場所にはいないと見えない景色が一面に広がっている。みんな景色

に見とれながら歩いて行く。

本日の核心のひとつの中ノ岳の登りである。O野さん以外はアイゼンに履き替えて、みんなが一直線になりラッセルしながら登って行く。雪が少なく大助かりである。高度感があり緊張しながら登って行く、斜面を登りきると一部雪がしまってラッセル不要の箇所もあるが基本ラッセル、でも膝まで。雪が湿って団子になるのが難点である。

中ノ岳からは第2の核心の痩せ尾根。前日雪が降らなかったの以前日以前のトレースが既にあり緊張感が緩むが、風が強くなり厳しい箇所も有るので気を引き締めて登る。山頂直下で、最後の休憩を取り一気に山頂に登る。山頂は予想通りに絶景。記念写真をパチリと取る。別ルートからも登山者が登ってくる、人気の山である。しばし、景色を堪能して帰路に着く。急斜面



は思った程でなかったのですがそのままを向いて慎重に降りる。途中でワカン、スノーシューに履き替える。朝、あれ程感動を与えた景色に霞がかかっている。危険地帯を過ぎたのでみなさん思い思いのルートを進む。

ただし、余り離れないように。12時30分にはテントに戻りテントを撤収し下山する。駐車場には15時に着き、風呂に入り全員無事に帰宅する。

以上